

卵子提供調査で見ると

岡山大研究班 24日にセミナー

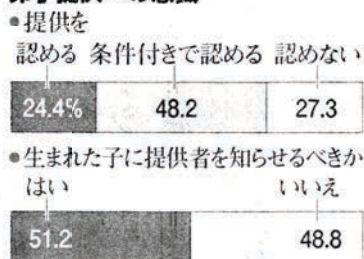
卵子の提供や凍結保存についての一般人の意識調査をした岡山大の中塚幹也教授らの研究班は24日、公開セミナーを岡山大医学部内で開き、卵子提供に肯定的な人が7割を超える「グラフ」など、結果の詳細を報告する。

「20〜30代の参加を」

卵子提供に関する法整備が進まない中、今年1月、神戸のNPOの仲介で、匿名第三者の無償提供卵子を使った赤ちゃんが国内で初めて誕生した。海外で卵子

提供を受ける人もいる。このような状況の中、一般人はどう考えているのかを探るため、中塚教授らは文部科学省と日本学術振興会の科学研究費助成を受け、2016年に約130

卵子提供への意識



0人規模の全国調査をした。

セミナーでは、調査で見た、妊娠出産に対する「当事者意識」の差による受け止め方の違いなどをデータと共に紹介する。併せて、日本で初めて、姉妹や友人ではない「第三者」が提供した卵子による出産を

手がけたNPO法人の代表と、法律や生命倫理の専門家らと、卵子を取り巻くさまざまな問題を話し合う。

病気のため自分の卵子で妊娠できない人に対し、匿名の第三者からの卵子提供を仲介するNPO法人「OINET」（神戸市）の岸本佐智子代表は、「卵子提供で子どもを持つこと」の意味」と題し、提供システムの仕組みや、活動を始めたきっかけなどを話す。卵子や精子の提供は無償であるべきかどうかについて、生命倫理に詳しい栗屋剛・岡山商科大教授が問題提起し、名古屋経済大学学

部の矢野圭介教授が、出自を知る権利について説明する。中国や台湾での意識と実態も報告される。

誰でも参加できる。中塚教授は「これからルールを決めていく当事者世代である20〜30代の人に積極的に参加して、発言してほしい。卵子を必要としている人もぜひ。決断をするときの判断材料になると思えます」と呼びかける。

24日午後1時半〜4時半、岡山市北区鹿田町2丁目、岡山大医学部臨床講義棟第1講義室で。無料。問い合わせは事務局（086・235・6538）へ。

（中村通子）